



資料館インフォメーション

四大公害病資料館が連携して、公害被害の教訓を活かす取り組みを進めます！

■語り部による伝承会

～公害の教訓を語り伝えるために～【入場無料】

熊本、新潟、三重、富山の語り部の方々が資料館に集まり、講話や「公害病」教訓の継承策などについての意見交換会を行います。四大公害病の語り部が一堂に会するのは、全国初となります。

日 時：平成25年9月28日(土) 午後1時30分～5時
場 所：富山県立イタイイタイ病資料館 2階交流学習ルーム
内 容：語り部講話／語り部の皆さんらによる意見交換会

■「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」

日 程：平成26年2月15日(土)
(開催時間、内容は未定)

※四大公害病の資料館長等にも参加していただき、連携を深めます。



今年度から四大公害病の資料館のパネルを展示室に設置しています。

課外学習サポート事業【利用校募集中】

より多くの学生にイタイイタイ病の恐ろしさやその克服の歴史を学んでいただけるよう、学校や施設等を起点・終点として、資料館までの「無料送迎バス」を提供する「課外学習サポート事業」を実施しています。

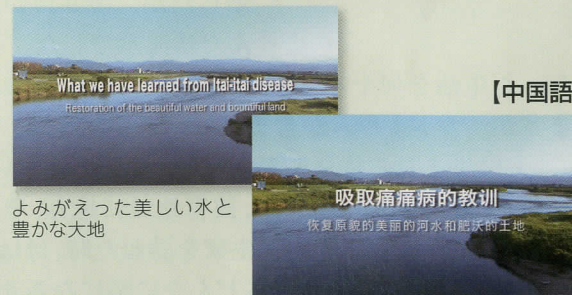
- 対象：小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、大学
 - 原則1日1校まで先着順にて受け付け
- 詳しくは、資料館のホームページをご覧ください。

国外への情報発信も強化しています

イタイイタイ病の教訓や克服の歴史を国内外に広く情報発信するため、ホームページは5ヶ国語(日・英・中・韓・露)で開設しています。資料館の展示室を実際に見学しているような雰囲気、イタイイタイ病を学べる「バーチャル展示室」では、これまでの日本語に加え、英語・中国語へも対応し、内容の充実を図りました。



イタイイタイ病の概要を約15分の映像でわかりやすく解説したガイダンス映像でも英語・中国語版を作成し、国外からの来館者にも対応しています。



今後、韓国語・ロシア語にも対応していきます。

資料館だより

2013年 秋号

contents

- 開館1周年 初めての企画展 開催…… 2
- 子ども向けイベント…… 2
- 次代を担う若者へ イタイイタイ病の教訓を伝承します…… 3
- 語り部コーナー…… 3
- 資料館インフォメーション…… 4

平成25年 4月27日～5月31日 開館1周年記念 特別企画事業 開催



イタイイタイ病 Q&A



語り部講話映像上映会



写真で感じるイタイイタイ病



小中学生の課外学習報告

資料館の動き

これまでの出来事

- 平成25年4月27日(土)～5月31日(金) 開館1周年記念特別企画事業の開催
- 4月29日(月) 資料館、開館1周年 (年間入館者数：39,606人)
- 5月2日(木) 入館者4万人達成(314日目)
- 8月2日(金)、3日(土) 夏休み自由研究講座
- 9日(金) イタイイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー
- 17日(土) 入館者5万人達成(407日目)

これからの行事予定

- 9月28日(土) 語り部による伝承会
- 12月26日(木) 小学校教員向け研修会
- 平成26年1月28日(火)～30日(木) イタイイタイ病映像展
- 2月15日(土) イタイイタイ病を考える県民フォーラム

メールマガジン

【登録者募集中】

月に1回、資料館の最新情報などをお伝えするメールマガジンを配信しています。配信を希望される方は、次のメールアドレスあてにメールを送信してください。【mlhope@itaiitai-dis.jp】

発行/富山県立イタイイタイ病資料館

(平成25年9月発行)

〒939-8224 富山県富山市友杉151番地 (とやま健康パーク内)

電話▶076-428-0830 FAX▶076-428-0833

URL▶http://itaiitai-dis.jp



開館1年半を迎えて

富山県立イタイイタイ病資料館 館長 鏡森 定信

まもなく開館1年半を迎えます。初年度効果も過ぎ、来館者数は全体として昨年同期を下回っていますが、団体来館者数は増加傾向にあり、資料館の認知度も徐々に高まっていると思います。また、夏休みの小学生を対象とした「自由研究講座」と「日帰りバスツアー」では、昨年よりも大幅に参加者が増え、関係者やマスコミによる報道効果に感謝しています。

資料館では、語り部講話を聴講された団体来館者には全員に、一方、個人来館者にも、季節毎にアンケートを実施し、ご意見をお聞きしています。展示内容や解説の分かりやすさ、語り部講話への感銘など、大方の皆様から高い評価を

受けており、二度、三度と訪れる来館者も多くなっています。資料館の運営にご協力いただいている語り部や解説ボランティアの皆様にも深く感謝いたします。

このほか、イタイイタイ病の貴重な資料を寄贈していただいた方々、授業やセミナーに取り組みされている教師や研究者の方々、神岡地区や海外からの来館者など、新たなつながりも増えてきています。

今後も皆様とのつながりを大切にしながら、学びの場としての資料館の役割を一層深めていきます。



シンガポールの中学生来館

開館1周年 初めての企画展 開催

平成25年4月27日から5月31日までの間、開館1周年記念として、特別企画事業を実施しました。1周年の節目として、初めて開催した企画展。資料館HPや関係施設などへのPR、マスコミによる報道の効果もあり、大変多くの方々にご来館いただきました。

前半までの取組みでは、4月29日と5月5日に、鏡森館長の講話を開催。「イタイイタイ病Q & A」と題して、これまで来館者から寄せられた疑問・質問などに答えて、わかりやすく解説しました。聴講された皆さんには、これまで抱えておられたイタイイタイ病の疑問などをすっきり解決してお帰りいただけたことと思います。

語り部講話の様子をビデオ映像で紹介した上映会では、7名の語り部による講話を5月6日まで順次上映し、視聴していただきました。

期間中を通して開催した特別展示では、普段見ることのできない被害者団体から寄贈された裁判当時の貴重な写真20点を展示するとともに、昨年の開館以降の資料館の歩みを写真で振り返りました。また、県内外から来館された小中学校の生徒たちが、資料館で学んだことや感想をまとめた学習報告なども展示しました。

これからも、来館のたびに環境と健康について新たな学びにつながるよう、工夫した取組みを積極的に行っていきます。



次代を担う若者へ、イタイイタイ病の教訓を伝承します

5月、訪日した北京大学の学生26名が来館

現代日本の政治・経済・文化などを研修する目的で来日し、イタイイタイ病を学びました。中国語の展示ガイドブックや音声ガイドを利用した展示見学後、昨年度作成したガイダンス映像（中国語版）を初上映しました。約15分でまとめた映像でさらに理解を深めていただきました。

6月、海外派遣事業で来県したシンガポールの中学生30名が来館

歓迎の挨拶に続き、イタイイタイ病の概要説明も、館長自ら大きな身振りや手振りを交えた英語で行いました。その後、展示見学やガイダンス映像（英語版）を視聴。さらに語り部講話では、通訳を介して公害病に苦しむ患者や看病の様子を聴いていただきました。今回の見学で、公害を学ぶ施設として来年も訪問いただけることになりました。



寄贈された環境保全の啓発ポスター(左2点)を掲げ、記念撮影

無料送迎バスで来館の引率教員の声を紹介

「無料送迎バス」を提供し、来館をサポートする「課外学習サポート事業」を利用して、資料館を訪れた小学校の引率教員の方々の声をご紹介します。

患者の方の苦しみを知り、二度とこのようなことが起こらないように、環境を守ってほしいという思いを強くしました。子どもたちが理解を深められるような工夫がたくさんしており、大変勉強になりました。

語り部のお話を聴くことで、教科書では学ぶことのできない被害者と被害者遺族の苦勞を知ることができました。教科書では、イタイイタイ病についての記述はわずかです。富山県民として、イタイイタイ病とふるさとの人々の努力、苦勞を知ることが、大切なことだと改めて思いました。

公害の恐ろしさや地域住民の方々が一丸となって裁判を起こしたことなどを学習していく上で、とても素晴らしい施設です。送迎バスは、とてもありがたい制度です。

子ども向けイベント

夏休み

今年も子どもたちがイタイイタイ病を学びました

夏休み自由研究講座 「イタイイタイ病を学ぼう」



講座には、県内12の小中学校から4～6年生18名と保護者の計33名が参加しました。展示室では、語り部の高木良信さん（イタイイタイ病対策協議会副会長、患者遺族）から、実体験を踏まえたお話を聞き、公害の悲惨さと被害の根絶に向けた取り組みを学びました。展示室内にヒントが記載されているワークシートクイズでは、親子であちこちのコーナーに移動しながら、協力して回答していました。



水の実験では、台所洗剤で汚れた水などの汚染度を測定し、魚がすめる基準と比較をしました。

【日時と内容】

8月2日、3日（13:30～16:30）

- ①イタイイタイ病についての学習（講義、クイズ）
- ②語り部 高木良信さんによる展示解説、質疑応答
- ③水に関する実験（水の汚れの程度を調べる実験）

参加者の声

イタイイタイ病のことがよくわかったのでよかったです。また、水の実験も楽しかったです。（小学6年生・女子）

高木さんが熱心に解説してくださり、生の声が聞いてよかったです。また、子どもワークシートがわかりやすく、クイズもあり小学生にはよかったです。（40歳代・母親）

イタイイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー

朝から強い日差しが照りつける中、県内8の小中学校から4～6年生11名と保護者の計20名が資料館に集合しました。

神岡鉱業(株)では、「排水管理センター」や直径30mの排水処理施設「シックナー」を見学。工場排水に含まれるカドミウムなどの重金属と水を分離して処理するしくみなどを学びました。午後は、広大な敷地に鉱石のくずを溜め、水分と固形分に分離する「和佐保たい積場」で、処理設備の概要や管理の説明を受けました。

また、行路の前後には、復元工事で汚染田からよみがえり豊かな稲穂が実る水田の様子や、復元工事のために土砂を採った跡地も見学しました。



【日時と行程表】

8月9日（8:50～16:10）

- ①資料館→②富山市塩地区復元田→③神岡鉱業(株)→④富山市八尾町卯花地区採土地→⑤資料館

参加者の声

普段行けない場所ばかりなので、よい経験になりました。（小学4年生・男子）

子どもの自由研究にと参加しましたが、私自身も色々知ることが出来てよかったです。今回は、地元のことを知る大変よい機会になりました。（40歳代・母親）



『私の抱負』青木有明さん(91歳)

私の生家は農家で、田んぼの用水はすべて、神通川から引き込んで耕作していました。夏場の暑い農作業の間には、母がよく用水の水を無造作に手ですくって、のどを潤していたのを覚えています。家の生活用水は、井戸水でしたが、浅井戸のため、近くを流れる用水から流れ込んだ伏流水でした。このように用水（神通川）と深くかかわった生活を何十年も続けてきましたが、この用水と田んぼで取れたお米の中に、まさか、カドミウムが含まれていたなどは、つゆほども思いませんでした。

「人は生まれる場所や時代は選べない」と言いますが、母は、まさに神岡鉱山の発展期に、被害地域に生まれ、被害地域に嫁ぎ、そして、イタイイタイ病に遭遇してしまいました。母親の晩年に生家を訪ねた時、母は私の顔をしげしげと見て「あきちゃん、私を殺して。死んだらどんなに楽になるんだろうね。」と言われた時は、返す言葉がありませんでした。長年、死にたくなるほどの痛みに向き合い、苦しみが亡くなっていった現実を、しっかりと後世に伝えていくことが、私の使命だと強く感じています。

語り部講話の聴講者を募集しています
対象は10名以上の団体で、事前申込が必要です。
詳しくは資料館のホームページをご覧ください。



語り部講話の感想

お母さんが、あんなに苦しみが亡くなるなんてかわいそうだと思います。（小学生・男子）

実際に被害を受けた方が話してくださり、本当の話がわかりました。このことは、二度と起こしてはいけないので、多くの方に語り継いで欲しいと思います。（50歳代・男性）

イタイイタイ病で苦しめた方々はどんなにつらかったことかと思うと胸が痛みます。この資料館が出来て少しでも皆さんに知っていただくことが出来るのは、よいことだと思います。（60歳代・女性）

私の友人がイタイイタイ病で亡くなり、当時のことが思い出され胸が熱くなりました。これからも忘れず、公害は、絶対に無くしたいです。（70歳以上・女性）

